

県立中央看護専門学校^の学校関係者評価（報告）

日 時：令和 2 年 2 月 6 日（木）午後 2 時から 3 時 30 分（1 時間 30 分間）

場 所：県立中央病院内 教育支援室

説明者：学校長 荻津 綾子 教頭 小島 朋子（担当）

報告者：県立中央病院 看護師長 秋山 順子 看護師長 田崎 美紀

1 学校評価 自己評価の結果（小島が説明）

2 学校関係者からのご意見など

(1) 重点目標・今年度の取組に関すること (2) 自己評価（学校全体・各学科）に関すること

(1) (2) 併せての質問と回答

1 重点目標 1-3)「図書室の蔵書・視聴覚教材の購入を計画し学習環境を整備する。」に関して

質問：図書室の医学中央雑誌等の検索はできるのか。新刊図書は計画的に行っているのか。司書はいるのか。

回答：検索できる環境は整備している。新刊図書は毎年計画的に購入している。購入後は掲示し学生に案内している。司書は午後から 18 時まで常駐。実習後に図書室を使用する学生のために開放している。

2 重点目標 2-3)「人材を育成する。・教員間の支援体制の強化」に関して

質問：教員間の支援体制の強化が低いのは？

回答：支援体制として、プリセプター制を導入し新任教員を 1 年間サポートしている。また中堅教員でも専門領域以外は実習調整者がサポートする等の体制を取っている。しかし、そのサポートに関して評価する項目がなく、また評価が低い項目が重点目標に繋がらないものがあつたので、評価項目 3-25「優秀な教員の確保」を評価項目に挙げた。重点目標、細目標と評価項目の整合性を課題とし、今後の改善点として取組む。

質問：実習指導者の中に学生指導は嫌いではないが、教員のように教育に責任をもてるか不安。

回答：新任教員は教育の質の担保と不安解消のため実習指導要項を活用している。学校に異動の際はその指導要領を活用してもらっている。

3 重点目標 2-3)「人材を育成する。・実習施設との教育連携の強化」に関して

質問：具体的にどのような教育連携に取組んだのか。

回答：中央病院で勤務する教員養成講習会修了者 3 名を対して、4~5 日間のシャドー研修を 8・9 月に実施した。看護局長の声掛けで実施したものである。教員研修で学んだ看護教育を振り返る良い機会となつた。実習指導の見学では教員の立場でみた学生指導に新しい学びがあつた。実習指導者として気付かない点であつたと高評であつた。

質問：実習指導者の研修としても可能か。

回答：可能。基礎看護技術演習に参加する研修も良い。実施の際は準備期間が必要である。

質問：看護局長に相談の上、検討会を設けても良いか。

回答：検討会から準備すると良い。実習指導者が入るシミュレーション教育は有益である。

(3) 自己評価・学校関係者評価の全般に関すること

特になし。

3 その他（ご感想など）

今回の評価に参加し、教育の実態を知る機会になつた。また教育の協力体制が臨床教育の質向上にも繋がり、良い機会になつた。今後も継続を望む。

以上